

愛知県における 男性家庭科教員の担当状況の研究・調査

○ 今村浩一 (愛知県立安城南高)

目的 1989年に高等学校学習指導要領が改訂され、家庭科が男性必修になった。改訂学習指導要領は1994年度より実施され、相前後して高等学校において男性家庭科教員が誕生した。愛知県においても教育委員会主催の家庭科教員養成事業により、約80人の男性家庭科教員が誕生し、他教科との兼務であるが、1997年度には約60人が単独で活躍している。ところで、男性家庭科教員の現状については誕生してから日が浅いこともあって、いまだに十分に研究がなされていない。そこで、約60人の男性家庭科教員が教科を担当している愛知県の県立高等学校を対象に、担当状況の研究・調査を実施した。

方法 愛知県の『家庭科要覧』の会員名簿を用いて、男性家庭科教員の授業担当者を抽出。それに基づいて、各学校の『学校経営案』の1997年度版から、担当教科・科目、校務分掌等の各項目を全数調査した。あわせて、聴き取り調査、アンケートを用いて、男性家庭科教員の実態についての補足調査を行った。

結果 愛知県の場合に限定されるが、初めて養成から教科担当に至るまでの男性家庭科教員の全容が明らかになった。本研究の独自性もここにある。あわせて、養成における経歴調査、聴き取り調査により、労働経済学におけるキャリアパス分析の観点から、教員生涯における家庭科担当の位置づけも明らかにした。また、教員の知的熟練、糧形式にも言及し、男性家庭科教員の養成の論議の存在で注目されるべき専門性とOJT(仕事を通じての教育訓練)の関連についても一定の見解を示した。